

4. 開花期は「ユウヅル」より約6日早く、成熟期も12日前後早い中生種である。
5. 耐倒伏性は「ユウヅル」より強く、裂莢性はほぼ「ユウヅル」なみである。
6. マメシクイガの被害は「ユウヅル」なみで多く、ダイズわい化病、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性はない。
7. 収量は「ユウヅル」と同程度であるが、熟期が早いので収量の安定性は「ユウヅル」より高い。
8. 子実の粗蛋白含有率は「ユウヅル」よりやや低く、粗脂肪含有率は「ユウヅル」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 空知支庁管内の中南部、石狩、後志、胆振、日高の各支庁管内ならびにこれらに類似する地帯において、「ユウヅル」「北見白」「キタムスメ」「トヨスズ」などにおきかえる。また栽培上の注意は「ユウヅル」に準ずる。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主莖長 (cm)	主莖節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実数 (実/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	ユウヒメ	7.23	10. 1	48	12.1	5.3	53.5	341	105	410	上中	1975～
	ユウヅル	7.29	10.13	61	14.7	4.1	56.4	324	100	418	上下	1978
道南農試	ユウヒメ	7.23	9.24	62	13.1	5.2	61.9	354	104	410	中上	1975～
	ユウヅル	7.28	10. 6	75	14.5	3.9	56.3	342	100	419	中上	1978
原原種農場	ユウヒメ	7.21	9.26	51		6.9	56.9	284	86	368	上中	1975～
	ユウヅル	7.26	10. 5	63		4.9	56.8	330	100	418	上中	1978
十勝農試	ユウヒメ	7.27	9.30	48	12.2	5.6	46.3	241	83	372	上下	1975～
	ユウヅル	8. 1	10.15	65	13.9	6.0	51.5	290	100	403	上下	1978

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項。1—4 (1979)。
 2) 後木利三。農業技術。34, 512—514 (1979)。
 3) 谷村吉光。北海道立農試集報。45, 70—78 (1981)。

(2) キタホマレ (旧系統名 十育171号)

登録番号：(北海道) 大豆北海道第24号；(農水省) だいで農林70号；(種苗法) 第200号

来歴 本品種は、1965年(昭40)に北海道立十勝農業試験場において、「十育114号」を母、「カリカチ」を父として人工交配を行い育成したもので、1972年(昭47)に「十系479号」、1973年(昭48)以降「十育171号」の系統名で各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は「キタムスメ」より短く、主茎節数、分枝数は「キタムスメ」なみ～やや少、最下着莢位置は「キタムスメ」よりやや低い。
2. 初期生育は「キタムスメ」よりやや劣る。胚軸色は緑、小葉の形は円葉、花色は白、毛茸色は褐、熟莢は褐色を呈する。
3. 子実はやや扁球形、種皮色は黄白、臍色は暗褐、千粒重は約300gで「キタムスメ」より重く、外観品質は「キタムスメ」なみである。
4. 開花期は「キタムスメ」なみ、成熟期は「キタムスメ」より5～6日遅く、中生の晩に属する。
5. 耐倒伏性は「キタムスメ」なみであるが、多肥や密植条件では「キタムスメ」より倒伏がやや多い。ク
6. マメシンヌイガの被害は「キタムスメ」なみ、ダイズシストセンチュウ、ダイズわい化病に対する抵抗性はない。またほ場ではダイズべと病の発病が認められない。
7. 収量は「キタムスメ」より約15%多収を示し、耐冷性も強で「キタムスメ」なみである。しかし熟期がやや遅いため、冷涼な地域での収量性は不安定である。
8. 子実の粗蛋白含有率は「キタムスメ」よりやや高く、粗脂肪含有率は「キタムスメ」なみである。

栽培適地と奨励態度 道央中部ならびに道央南部で、「キタムスメ」「北見白」におきかえる。また栽培上の注意は「キタムスメ」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実実数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	キタホマレ	7.24	10.6	51	11.6	5.6	68.4	328	112	317	中上	1973～
	キタムスメ	7.23	10.1	60	12.0	5.7	61.6	293	100	305	中上	1979
中央農試	キタホマレ	7.20	10.2	43	11.3	4.6	72.7	340	113	305	中上	1975～
	キタムスメ	7.20	9.29	54	11.9	4.2	60.8	300	100	289	中上	1979
原原種農場	キタホマレ	7.19	9.28	43	—	5.6	77.0	333	114	284	中上	1973～
	キタムスメ	7.19	9.25	53	—	5.3	66.4	292	100	281	中上	1979
上川農試	キタホマレ	7.20	10.2	60	11.7	6.2	90.4	332	117	302	中中	1973～
	キタムスメ	7.20	9.28	70	12.1	6.1	80.5	310	100	294	中上	1977
北見農試	キタホマレ	7.29	10.9	64	11.8	4.9	71.0	330	115	306	中上	1973～
	キタムスメ	7.28	10.4	70	12.3	5.1	66.4	288	100	284	中上	1976

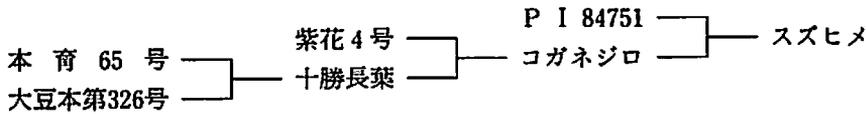
- 参照 1) 北海道農務部編。昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項。9—13 (1980)。
 2) 砂田喜与志, 等。北海道立農試集報。45, 79—88 (1981)。
 3) 砂田喜与志, 等。農業技術。35, 455—458 (1980)。

(3) スズヒメ (旧系統名 十育182号)

登録番号: (北海道) 大豆北海道第25号; (農水省) だいず農林71号; (種苗法) 第199号

来歴 本品種は、1960年(昭35)に北海道立十勝農業試験場において、ダイズシストセンチュウ抵抗性品種の育成を目的として、「P I 84751」(アメリカより導入した中国産大豆)を母、「コ

ガネジロ」を父として人工交配を行い育成したものである。1969年(昭44)に「十系421号」の系統名を付し、以後交配母本として利用したが、1975年(昭50)に納豆原料用として本系統利用の可能性に着目し、再度系統選抜を行い、1977年(昭52)以降「十育182号」の系統名で各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要
1. 主茎長は「トヨスズ」よりやや長く、主茎節数も「トヨスズ」より1~2節多い。分枝は「トヨスズ」より多く、基部で開張したのち直立し、主茎頂部の高さ程度に伸長する。
 2. 初期生育は「トヨスズ」より劣る。胚軸色は紫、小葉の形は長葉、花色は赤紫、毛茸色は白、熟莢は淡褐色を呈する。
 3. 子実はやや扁球形、種皮色は黄、臍色は黄~極淡褐、千粒重は130~150gで小粒の中に属し、外観品質は良いが、粒揃いはやや劣る。
 4. 開花期は「トヨスズ」より1~2日遅いが、成熟期は4~5日早く、中生の早に属する。
 5. 耐倒伏性、耐冷性は「トヨスズ」なみ、裂莢性は「トヨスズ」より難である。
 6. マメシンクイガ、菌核病の被害は「トヨスズ」なみ、ダイズシストセンチュウ抵抗性は「トヨスズ」より強い。
 7. 収量は「トヨスズ」より15%前後劣るが、密植による増収率は「トヨスズ」よりやや高い。
 8. 子実の粗蛋白含有率は「トヨスズ」なみで、粗脂肪含有率は「トヨスズ」よりやや低い。納豆としての加工適性はすぐれている。

栽培適地と奨励態度 十勝中部地域で「トヨスズ」の一部におきかえる。また栽培に当たっては、密植栽培とし、納豆原料であるため、とくに収穫、乾燥、調整には子実品質を損わないよう注意する。

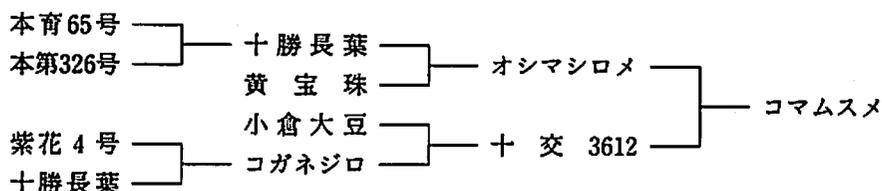
試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	珍実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	スズヒメ	7.25	9.27	45	11.7	6.3	85	230	80	130	上下	1976~ 1979
	トヨスズ	7.21	10.6	44	10.6	4.5	53	286	100	319	上下	
北見農試	スズヒメ	7.26	9.28	59	13.2	6.5	113	243	82	121	中上	1978~ 1979
	トヨスズ	7.20	10.6	58	10.8	4.2	67	296	100	307	中中	
上川農試	スズヒメ	7.20	9.20	55	13.4	6.3	108	250	82	114	中下	1977~ 1979
	トヨスズ	7.15	9.29	51	11.0	3.6	63	305	100	301	中上	
中央農試	スズヒメ	7.22	9.24	43	12.0	3.8	83	254	90	141	上下	1977~ 1979
	トヨスズ	7.19	10.1	39	10.2	3.7	53	281	100	319	上中	
原原種農場	スズヒメ	7.18	9.16	41		6.0	93	225	76	127	中上	1977~ 1979
	トヨスズ	7.15	9.27	40		5.0	65	297	100	293	中上	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-19 (1980).
 2) 砂田喜与志, 等, 北海道立農試集報, 45, 89-100 (1981).
 3) 砂田喜与志, 等, 農業技術, 35, 458-461 (1980).

(4) コマムスメ (旧系統名 中育9号)

登録番号：(北海道) 大豆北海道第26号；(農水省) だいで農林75号；(種苗法) 第343号

来歴 本品種は、1968年(昭43)に北海道立中央農業試験場において、「オシマシロメ」を母、「十交3612」を父として人工交配を行い育成したもので、1973年(昭48)より「中系27号」、1975年(昭50)以降「中育9号」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 主茎長は「ユウヅル」より短く、主茎節数も少ない。分枝数、着実数は「ユウヅル」より多い。

2. 胚軸色は紫、小葉の形は円葉、花色は紫、毛茸色は白、熟莢は淡褐色を呈する。
3. 子実扁球形、種皮色は黄白、臍色は黄、千粒重は370g程度で「ユウヅル」より小さいが、大の中に属する。しわ粒や裂皮粒の発生は「ユウヅル」なみかやや少ない。粒揃い良く、外觀品質は「ユウヅル」なみに良好である。
4. 開花期は「ユウヅル」より3～5日早い、成熟期は「ユウヅル」よりやや遅い晩生種である。
5. 耐倒伏性は「ユウヅル」よりやや強く、マメシンクイガの被害は「ユウヅル」なみで多い。ダイズわい化病、ダイズウィルス病、ダイズシストセンチュウなどに対する抵抗性はない。
6. 収量は「ユウヅル」より12～22%多収を示す。収量に対する増肥効果は小さいが、密植効果は大きい。
7. 子実の粗蛋白含有率は「ユウヅル」なみで、粗脂肪含有率は「ユウヅル」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 道南(渡島、桧山支庁管内)およびこれに準ずる地帯(胆振、日高支庁管内の一部)に適する。また栽培上の注意は「ユウヅル」に準ずるが、やや密植にすることが望ましい。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実数 (実/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	コマムスメ	7.27	10.16	58	13.2	5.2	60.7	334	112	373	上下	1975 1977 1981
	ユウヅル	7.31	10.16	65	15.1	4.6	57.6	299	100	417	上下	
道南農試	コマムスメ	7.26	10.5	65	13.2	6.5	79.3	343	122	363	中上	
	ユウヅル	7.29	10.2	70	14.8	5.1	61.5	281	100	399	中上	
十勝農試	コマムスメ	7.30	(10.18)	61	12.3	7.3	55.4	282	105	333	中上	1975 1977 1978 1980 1981
	ユウヅル	8.1	(10.15)	64	13.9	6.0	50.1	269	100	388	中上	
原原種農場	コマムスメ	7.25	10.14	64		6.8	66.7	358	120	368	中上	
	ユウヅル	7.27	10.7	68		4.9	53.8	298	100	414	中上	

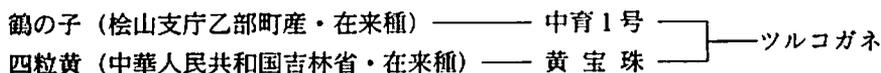
注) 十勝農試の成熟期は、コマムスメが成熟期に達しなかった1980年を除く4カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編. 昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項. 8-12 (1982).
 2) 番場宏治, 等. 北海道立農試集報. 48, 85-94 (1982).

(5) ツルコガネ (旧系統名 中育14号)

登録番号: (北海道) 大豆北海道第27号; (農水省) だいが農林79号; (種苗法) 第895号

来歴 本品種は, 1971年(昭46)に北海道立中央農業試験場において, 「中育1号」を母, 「黄宝珠」を父として人工交配を行い育成したもので, 1978年(昭53)に「中系67号」, 1981(昭56)以降「中育14号」の系統名で各種の試験を行い, 1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は, 「トヨスズ」より長く「ユウヅル」なみ, 主茎節数も「トヨスズ」より多いが, 「ユウヅル」より少なく, 分枝数は「ユウヅル」なみで, 伸育型は無限である。
 2. 胚軸色は緑, 小葉の形は円葉, 花色は白, 毛茸色も白で, 熟莢は淡褐色を呈する。
 3. 子実は球形, 種皮色は黄白で, 臍色は極淡褐。千粒重は「トヨスズ」と「ユウヅル」の中間で大に属し, 外観品質は良好である。
 4. 出芽の状態は「ユウヅル」よりも良く, 開花期は「トヨスズ」より1日遅く, 「ユウヅル」より10~12日早い。成熟期は「トヨスズ」より3日遅く, 「ユウヅル」より6~10日早い中生種である。
 5. 耐倒伏性は「ユウヅル」よりやや強く, 土壤湛水処理試験による耐湿性は「ユウヅル」より強く, 「トヨスズ」なみの中程度であった。
 6. ダイズわい化病に対しては圃場抵抗性を有し, 本病の多発地帯でも発病率は従来の品種よりかなり低く, また発病による減収程度も低い。しかし, ダイズモザイク病, ダイズシストセンチュウに対する抵抗性は弱く, またマメシンクイガの被害も「ユウヅル」なみに多い。
 7. 収量は「トヨスズ」より明らかに多く, 「ユウヅル」をも凌駕する。とくにダイズわい化病多発地帯では「トヨスズ」や「ユウヅル」との収量差が大きくなる。また収量に対する増肥効果はほとんどないが, 密植効果は大きい。
 8. 子実の粗蛋白ならびに粗脂肪含有率は「ユウヅル」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 ダイズわい化病の発生が極めて多い日高, 胆振, 桧山北部, 渡島北部で, 「トヨスズ」「キタムスメ」「ユウヅル」などにおきかえる。また栽培に当っては, ダイズわい化病に対して圃場抵抗性を有するとはいえ, 無防除では減収するので, 従来の品種と同様の防除が必要である。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実収量 (g/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	ツルコガネ	7.26	10.13	65	14.6	5.5	58.3	286	108	352	上下	1981~ 1983
	ユウヅル	8.5	10.20	67	15.2	5.7	56.0	265	100	398	上下	
	トヨスズ	7.25	10.10	42	10.2	3.4	50.1	245	92	328	中上	

光黒」にかえて栽培する。山麓および沿海では特に気象条件不良な地帯を除く。また栽培上の注意は「中生光黒」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実数 (実/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	トカチクロ	7.26	10.3	55	12.9	6.0	56.8	287	107	358	中上	1977～ 1983
	中生光黒	7.30	10.11	51	12.3	4.7	50.3	267	100	349	中上	
北見農試	トカチクロ	8.1	10.9	58	12.3	5.9	58.1	244	130	356	中中	1980～ 1983
	中生光黒	8.3	10.13*	62	12.7	4.9	53.3	188	100	340	中中	
上川農試	トカチクロ	7.23	10.2	68	13.4	5.0	60.1	268	101	346	中上	1979～ 1983
	中生光黒	7.28	10.14	79	14.6	3.9	56.5	265	100	355	中中	
中央農試	トカチクロ	7.27	10.7	57	13.0	5.9	59.5	307	122	414	中中	1980～ 1983
	中生光黒	7.29	10.16	60	13.8	3.9	59.0	252	100	412	中中	
原原種農場	トカチクロ	7.23	9.29	70		6.4	69.1	359	105	356	中上	1980～ 1982
	中生光黒	7.25	10.10	70		4.6	62.3	341	100	398	上下	

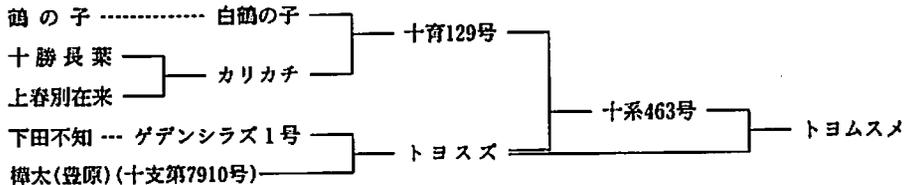
* 未成熟の2カ年を除く。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-19 (1984).
 2) 佐々木紘一, 等, 北海道立農試集報, 51, 113-124 (1984).
 3) 土屋武彦, 等, 農業技術, 39, 407-409 (1984).

(7) トヨムスメ (旧系統名 十育191号)

登録番号: (北海道) 大豆北海道第29号; (農水省) だいで農林81号; (種苗法) 第1216号

来歴 本品種は, 1971年(昭46)に北海道立十勝農業試験場において, 「十系463号」を母, 「トヨスズ」を父として人工交配を行い育成したもので, 1978年(昭53)より「十系600号」, 1980年(昭55)以降「十育191号」の系統名で各種の試験を行い, 1985年(昭60)年に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



5. 耐倒伏性は「トヨスズ」なみの強、ダイズシストセンチュウに対する抵抗性も「トヨスズ」なみの強である。また黒根病に対する抵抗性を有し、耐冷性や裂莢の難易は「トヨスズ」と差がなく、各々中および易である。
6. 収量は「トヨスズ」より5%前後多い。「トヨスズ」より熟期が早いため、低温などによる生育遅延の被害は「トヨスズ」より少ない。
7. 子実の粗蛋白含有率は「トヨスズ」よりやや低く、粗脂肪含有率は「トヨスズ」なみである。また煮豆、味噌、豆腐としての加工適性は「トヨスズ」と差がない。
- 栽培適地と奨励態度 十勝地方とこれに類似の地帯で「トヨスズ」におきかえて奨励する。また栽培上の注意は「トヨスズ」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月,日)	成熟期 (月,日)	成熟期における				10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本/株)	粒実重 (g/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	トヨムスメ	7.23	10.2	51	10.2	4.6	52.6	275	102	325	上下	1980~ 1984
	トヨスズ	7.23	10.7	48	10.4	3.8	48.2	269	100	315	中上	
北見農試	トヨムスメ	7.25	10.4	50	10.1	5.1	61.0	247	97	301	中中	1980~ 1984
	ヒメユタカ	7.30	10.8	65	11.4	4.7	58.6	255	100	332	中中	
上川農試	トヨムスメ	7.17	9.29	58	9.9	4.2	60.0	273	108	317	中上	1980~ 1984
	キタコマチ	7.16	9.23	59	10.5	3.9	49.9	253	100	280	中中	
中央農試	トヨムスメ	7.25	10.2	50	10.8	4.5	62.4	307	115	351	上下	1980~ 1984
	トヨスズ	7.24	10.8	45	10.4	3.7	54.0	266	100	330	中上	
原原種農場	トヨムスメ	7.21	9.30	50	10.1*	5.1	56.7	311	109	340	上中	1980~ 1984 (*:1983 ~1984)
	トヨスズ	7.19	10.3	49	10.0*	4.3	53.2	285	100	325	中上	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-22 (1985).
2) 紙谷元一, 等, 農業技術, 40, 547-548 (1985).

6. 小 豆

(I) ホッカイシロショウズ (旧系統名 十育93号)

登録番号:(北海道)小豆北海道第12号:(農水省)あずき農林3号

来歴 本品種は, 1966年(昭41)に北海道立十勝農業試験場において, 「白小豆(川西)」(白色在来種)を母, 「茶般早生」を父として人工交配を行い育成したもので, 1971年(昭46)より「6003」, 1975年(昭50)以降「十育93号」の系統名で各種の試験を行い, 1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 主茎長は「宝小豆」より5cm程度短く, 主茎節数, 分枝数は「宝小豆」とほぼ同じで, 着莢数はやや多い。

2. 小葉の形は円葉, 葉色は緑で「宝小豆」よりややうすい。花色は黄, 毛茸の形は鈍, 熟莢は白色を呈する。

3. 子実短円筒形, 種皮色は黄白, 千粒重は140g程度で「宝小豆」よりやや大きい。粒揃いはやや不良で, 外観品質は「宝小豆」よりやや劣る。

4. 開花期は「宝小豆」なみであるが、成熟期は「宝小豆」より2～3日遅く、中生の晩に属する。
5. 耐倒伏性は「宝小豆」よりやや強く、アズキ落葉病、莖疫病の被害は「宝小豆」なみである。種子の発芽能力に多少問題があり、低温や多肥条件では発芽率が低下する。また耐冷性は「宝小豆」より劣る。
6. 収量は、道東や道北では「宝小豆」より劣るが、道央や道南では「宝小豆」なみである。
7. 白あん原料としての適性には問題がない。

栽培適地と奨励態度 道央および道南の気象条件の良好な地帯およびこれに準ずる地帯に適し、栽培に当たっては必ず種子消毒を行い、適正な栽植株数確保のため播種量をやや多めにする。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当たり		子 実		試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	株実数 (実/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	ホッカイシロショウズ	7.30	(9.19)	38	2.9	41	206	80	142	中下	1975～ 1977
	宝 小 豆	7.31	(9.18)	44	3.0	38	259	100	134	中上	
中央農試	ホッカイシロショウズ	7.28	9.24	32	1.7	45	273	109	140	中下	1976～ 1977
	宝 小 豆	7.28	9.16	34	1.8	39	250	100	114	中上	
上川農試	ホッカイシロショウズ	7.21	(9.24)	46	3.2	29	209	84	142	中	1975～ 1979
	宝 小 豆	7.22	(9.9)	47	3.4	33	249	100	125	上下	
原原種農場	ホッカイシロショウズ	7.23	9.22	39	2.6	45	284	114	147	中上	1975～ 1979
	宝 小 豆	7.25	9.15	37	2.1	34	250	100	124	上下	

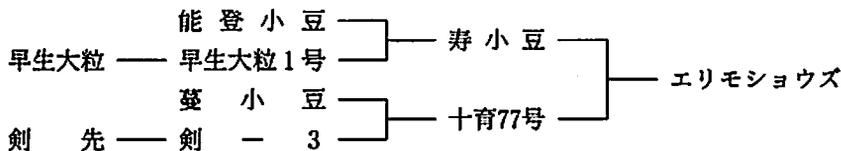
注) 十勝農試の成熟期は1975年のみ、上川農試は1975年と1977年の2カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編. 昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項. 5-10 (1979).
 2) 足立大山, 等. 北海道立農試集報. 43, 80-87 (1980).
 3) 村田吉平. 農業技術. 35, 21-22 (1980).

(2) エリモショウズ (旧系統名 十育97号)

登録番号: (北海道) 小豆北海道第13号; (農水省) あずき農林4号; (種苗法) 第340号

来歴 本品種は、1971年(昭46)北海道立十勝農業試験場において、「寿小豆」を母、「十育77号」を父として人工交配を行い育成したもので、1976年(昭51)に「十系123号」、1977年(昭52)以降「十育97号」の系統名で各種の試験を行い、1981(昭56)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 主茎長は「宝小豆」より短く、主茎節数もやや少ない。分枝数は「宝小豆」なみで、株当り実数は「宝小豆」より多い。
 2. 小葉の形は円葉、花色は黄、毛茸の形は鈍、熟実の色は褐で、形は「宝小豆」と同様に長

く、先端がわずかに湾曲する。

3. 子実はやや長円筒形，種皮色は「宝小豆」よりやや明るい赤色を呈し，千粒重は「宝小豆」より5g程度重い。外観品質は「宝小豆」なみで良好である。
4. 開花期は「宝小豆」とほぼ同じ，成熟期は「宝小豆」よりやや早い中生種である。
5. 耐倒伏性は「宝小豆」より強く，耐冷性も「宝小豆」よりややまさる。アズキ落葉病に対しては「宝小豆」なみで弱い。
6. 収量は「宝小豆」より6～9%多い。
7. 製あん適性は「宝小豆」なみかややまさる。

栽培適地と奨励態度 十勝中部ならびに道央・道南地域で，「宝小豆」「ハヤテショウズ」におきかえる。また栽培上の注意は「宝小豆」に準ずる。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当たり		子 実		試験年次
				主莖長 (cm)	分枝数 (本/株)	粒実数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	エリモショウズ	7.25	(9.17)	58	3.5	50	329	109	138	中上	1977～
	宝 小 豆	7.26	(9.19)	64	3.4	45	302	100	132	中上	1980
中央農試	エリモショウズ	7.26	9.9	32	2.7	39	254	109	119	上下	1977～
	宝 小 豆	7.26	9.10	35	2.7	39	232	100	110	中上	1980
上川農試	エリモショウズ	7.21	9.4	46	3.8	31	253	108	127	上下	1977～
	宝 小 豆	7.21	9.4	49	3.8	31	235	100	124	上下	1980
北見農試	エリモショウズ	7.28	(9.14)	44	2.1	39	242	106	138	上	1978～
	宝 小 豆	7.28	(9.15)	53	2.6	37	228	100	131	上	1980
原原種農場	エリモショウズ	7.20	9.3	40	3.0	38	264	106	123	上	1977～
	宝 小 豆	7.21	9.4	43	2.8	38	250	100	119	上	1980

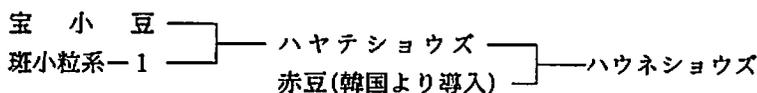
注) 十勝農試と北見農試の成熟期は1980年を除く3カ年平均。

- 参照 1) 北海道農務部編，昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項，18—23 (1981)。
 2) 村田吉平，等，北海道立農試集報，53，103—113 (1985)。
 3) 成河智明，等，農業技術，37，31—33 (1982)。

(3) ハツネショウズ (旧系統名 十育116号)

登録番号：(北海道) 小豆北海道第14号；(農水省) あずき農林6号；(種苗法) 第1212号

来歴 本品種は，1976年(昭51)に北海道立十勝農業試験場において，アズキ落葉病抵抗性品種の育成を目標として「ハヤテショウズ」を母，韓国から導入した「赤豆」を父として人工交配を行い選抜育成したものである。1981年(昭56)に「十系275号」，1982年には「十育116号」の系統名を付し，以後各種の試験を行い，1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 主莖長は「エリモショウズ」とほぼ同じ、主莖節数、分枝数ならびに着莢数は「エリモショウズ」よりやや少ない。

2. 小葉の形は円葉、花色は黄、毛茸の形は鈍、熟莢は褐色を呈し、莢長は「エリモショウズ」よりやや短い。

3. 子実の形は短円筒形、種皮色は「ハヤテショウズ」と同じやや濃赤で、「エリモショウズ」よりやや濃い。千粒重は「エリモショウズ」よりやや軽く、外観品質は「エリモショウズ」よりやや劣る。

4. 開花期は「エリモショウズ」なみか1～2日早く、成熟期は「エリモショウズ」と同じで中生種に属する。

5. アズキ落葉病に対する抵抗性が強く、莖疫病に対しても「エリモショウズ」よりやや強い。開花期前後の低温には「エリモショウズ」よりやや弱く、耐倒伏性も若干劣る。

6. 収量については、アズキ落葉病が発生しない畑では「エリモショウズ」よりやや劣るが、本病の発生ほ場では「エリモショウズ」より明らかに多収となる。

7. 子実の種皮歩合は「エリモショウズ」よりやや高いが、製あんや製菓原料としての適性には問題がない。

栽培適地と奨励態度 十勝、網走、道央ならびに道南で中生種の栽培が可能な地帯を適地とし、アズキ落葉病の発生が中程度以上のほ場で栽培を奨励する。また栽培に当たっては連作を避け、6年以上の輪作を前提とする。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当たり		子 実		試験年次
				主莖長 (cm)	分枝数 (本/株)	粒実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	ハツネショウズ	8. 3	(9.11)	48	1.8	33	172	92	111	中	1982～ 1984
	エリモショウズ	8. 5	(9.10)	52	2.1	34	187	100	117	中上	
中央農試	ハツネショウズ	7.31	9.14	44	1.6	38	212	81	108	中	1982～ 1984
	エリモショウズ	7.31	9.14	44	2.2	45	263	100	121	上	
上川農試	ハツネショウズ	7.25	9. 9	45	2.3	35	214	97	111	下	1982～ 1984
	エリモショウズ	7.27	9. 9	50	4.0	41	220	100	115	中上	
北見農試	ハツネショウズ	8.10	(9.22)	28	1.1	30	151	85	122	上下	1982～ 1984
	エリモショウズ	8.10	(9.23)	29	1.3	32	177	100	132	上下	
原原種農場	ハツネショウズ	7.29	9.12	41	2.4	35	234	88	123	中	1982～ 1984
	エリモショウズ	7.29	9.10	41	3.3	38	266	100	130	上	

注) 十勝農試と北見農試の成熟期は、1983年を除く2カ年平均。

参照 1) 北海道農務部編、昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項、22—27 (1985)。

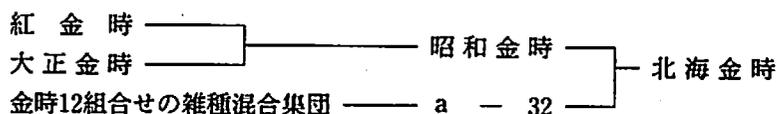
2) 原 正紀、等、農業技術、41、120—122 (1986)。

7. 菜豆

(I) 北海金時 (旧系統名 十育B-32号)

登録番号：(北海道) 菜豆北海道第20号；(種苗法) 第198号

来歴 本品種は、1967年(昭42)に北海道立十勝農業試験場において、「昭和金時」を母、「a-32(F7)」を父として人工交配を行い育成したもので、1973年(昭48)に「十系B-6号」、1974年(昭49)以降、「十育B-32号」の系統名で各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 草丈は45cm前後で「大正金時」よりやや高く、主莖節数は6節の矮性、分枝数は「大正金時」なみで、株当たりの着莢数は「大正金時」より少ない。
2. 胚軸色は淡赤紫、花色は淡紅、若莢は緑色の硬莢で、熟莢は黄白色を呈する。
3. 子実はやや長楕円形、種皮色は赤紫で「大正金時」よりやや濃い。大きさは「大正金時」より大きく、千粒重は約20%重い。外観品質は「大正金時」と大差ない。
4. 開花始は「大正金時」とほぼ同じで、成熟期は「大正金時」より3～5日遅い早生種である。
5. 各種の病害による被害や倒伏の程度は「大正金時」と同じである。
6. 収量は「大正金時」より約20%多い。
7. 種皮の厚さは「大正金時」よりやや厚いが、種皮歩合は低い。煮熟時の肉質は「大正金時」よりやや粘質であるが、食味は「大正金時」と差がない。

栽培適地と奨励態度 十勝、網走、上川支庁管内の畑作地帯で、「大正金時」におきかえる。栽培上の注意は「大正金時」に準ずるが、子実が大きいいため脱穀時の子実の損傷に留意する必要がある。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				草 丈 (cm)	分枝数 (本/株)	穂莢莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	北海金時	7.14	9.6	44	3.6	13.2	242	119	749	上下	1974～
	大正金時	7.13	9.1	39	3.6	15.3	204	100	603	中上	1978
北見農試	北海金時	7.12	9.9	45		15.5	281	119	765	中上	1975～
	大正金時	7.12	9.4	41		18.6	237	100	634	中	1978
上川農試	北海金時	7.4	8.21	38		9.5	190	112	721	中上	1975～
	大正金時	7.4	8.14	31		11.1	170	100	585	中上	1978
中央農試	北海金時	7.9	8.30	42		14.1	201	101	667	中	1975～
	大正金時	7.9	8.26	36		14.4	200	100	568	中	1978
原原種農場	北海金時	7.3	8.17	34		9.8	174	112	726	中上	1975～
	大正金時	7.3	8.12	28		10.9	155	100	580	上	1978

- 参照 1) 北海道農務部編、昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項、11—15 (1979)。
2) 成河智明、等、北海道立農試集報、43、72—79 (1980)。

(2) 改良早生大福 (旧系統名 中育F-1号)

登録番号：(北海道) 菜豆北海道第21号

来歴 本品種は、1969年(昭44)に北海道立中央農業試験場が収集した在来種「北見市豊地産」を素材として純系分離を行い育成したもので、1977年(昭52)に「中育F28A号」、1978年(昭53)以降「中育F1号」の系統名で各種の試験を行い、1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 草丈は「大福」よりやや短い、約3mとなるつる性種。株当たりの分枝数や着莢数は「大福」と大差ない。

2. 胚軸色は緑、葉はやや淡緑色を呈し、大きくて皺が多い。花は白色。硬莢種で成熟前の莢色は淡緑地に微細な紫紅斑を生じ、熟莢は淡褐色を呈する。

3. 子実は扁平なじん臓型で、色は白。千粒重は「大福」より15~20%軽い中粒種で、子実の外観品質は「大福」より劣る。

4. 開花期は「大福」より約6日、成熟期は7~14日早く、中生の晩に属する。

5. 炭そ病、輪紋病、インゲンモザイク病、黄化病等の被害は、「大福」なみである。

6. 収量は「大福」より劣る。

7. 種皮の厚さや種皮歩合は「大福」と大差なく、甘納豆や煮豆としての加工適性も「大福」と差がない。

栽培適地と奨励態度 根釧、道北地域を除く全道一円で「大福」の早生系在来種におきかえる。栽培上の注意は「大福」に準ずる。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10a当り		子実		試験年次
				草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
中央農試	改良早生大福	7.18	9.10	291	3.2	35.8	236	111	658	中上	1977~ 1979
	大福	7.24	9.24	329	2.9	36.0	298	141	822	上	
	大福(北見早生系)	7.18	9.11	285	3.2	35.2	212	100	627	中上	
北見農試	改良早生大福	(7.17)	9.6	347		30.9	348	108	684	上下	1978
	大福(北見早生系)	(7.17)	9.5	354		29.6	323	100	662	上下	

注1) 品種欄の「大福(北見早生系)」は在来系統。

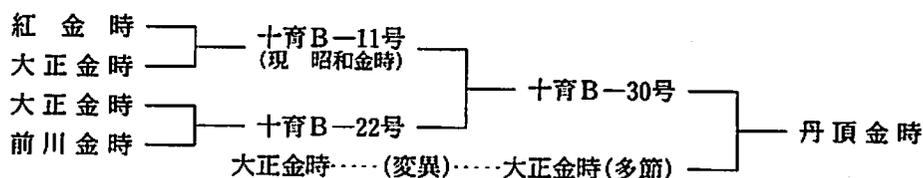
2) 北見農試の開花期は開花始を示す。

参照 1) 北海道農務部編、昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項、20-24 (1980)。

(3) 丹頂金時 (旧系統名 十育B-50号)

登録番号：(北海道) 菜豆北海道第22号

来歴 本品種は、1973年(昭48)に北海道立十勝農業試験場において「十育B-30号」を母、「大正金時(多節)」を父として人工交配を行い育成したもので、1979年(昭54)に「十系B-72号」、1980年(昭55)以降「十育B-50号」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要**
1. 草丈は「大正金時」よりやや高く、主莖節数は約6節のわい性、1株当たりの分枝や着莢数は「大正金時」よりやや少ない。
 2. 胚軸色は淡赤紫、花色は淡赤紫、若莢は緑色の硬莢で、「大正金時」に見られるような赤紫色の斑紋はない。熟莢は黄白色を呈する。
 3. 子実は長楕円体、種皮色は赤紫で「大正金時」よりやや濃い。大きさは「大正金時」より大きく、千粒重は「大正金時」より約20%重い。また外観品質は「大正金時」よりやや優る。
 4. 開花期は「大正金時」と同じで、成熟期は「大正金時」より1日程度い早生種である。
 5. インゲン炭そ病に対する抵抗性は、「大正金時」がC13菌系統に弱であるのに対して本品種は強である。このほかの病害に対する抵抗性や耐倒伏性は「大正金時」と差がない。
 6. 子実収量は「大正金時」より5～10%多い。
 7. 種皮の厚さは「大正金時」よりやや厚く、種皮歩合もやや高い。煮熟時の肉質は「大正金時」よりやや粉質であるが、煮豆、甘納豆などの加工適性は「大正金時」と差がない。
- 栽培適地と奨励態度** 十勝、網走、上川支庁管内で、「大正金時」の一部におきかえる。栽培上の注意は「大正金時」に準じ、とくに脱穀時の子実の損傷に留意する。

試験場名	品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				草 丈 (cm)	分枝数 (本/株)	総実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
十勝農試	丹頂金時	7.16	9.7	45	4.0	13.4	221	107	840	上下	1980～ 1985
	大正金時	7.16	9.6	43	4.2	14.6	207	100	705	中中	
北見農試	丹頂金時	7.19	9.9	38	4.1	15.3	235	108	748	上下	1982～ 1985
	大正金時	7.18	9.7	35	5.2	16.4	218	100	634	中上	
上川農試	丹頂金時	7.7	8.24	45	4.8	13.3	196	113	679	中上	1982～ 1985
	大正金時	7.7	8.23	39	4.8	13.6	173	100	576	中下	
原原種農場	丹頂金時	7.7	8.17	35	4.7	11.5	163	87	640	中上	1982～ 1985
	大正金時	7.7	8.17	34	5.0	12.7	187	100	581	中中	

参照 1) 北海道農務部編. 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項. 6-10 (1986).

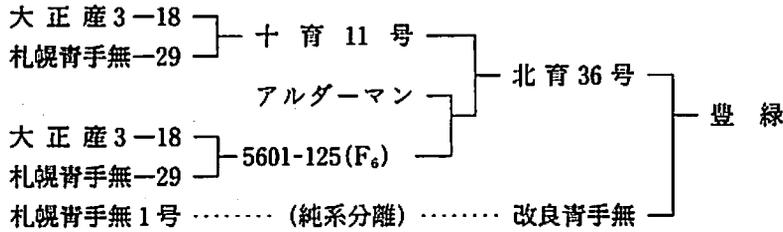
8. えん豆

(1) 豊 緑 (旧系統名 北育43号)

登録番号：(北海道) えん豆北海道第5号；(種苗法) 第1022号

来歴 本品種は、1972年(昭42)に北海道立北見農業試験場において、「北育36号」を母、「改良青手無」を父として人工交配を行い育成したもので、1978年(昭53)から「3001」、1980年(昭

55) 以降「北育43号」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 草丈は「改良青手無」より低く、わい性に属する。節間長が短く、分枝は下位節から発生し、その数は「改良青手無」程度である。

2. 小葉の大きさは中、形は楕円、葉色は濃緑で「改良青手無」より濃い。莖は「改良青手無」より細く、花は白色で大きさはやや大である。

3. 莢は濃緑色で、「改良青手無」に比し長さはやや短く、幅もやや狭い。1莢内粒数は「改良青手無」より約25%多く、子実の形や色は「改良青手無」に類似し、千粒重は「改良青手無」よりやや重い。

4. 開花期や成熟期は「改良青手無」より2~3日遅く、晩生種に属する。

5. 耐倒伏性や細菌病に対する抵抗性は「改良青手無」なみで、肩豆の発生は「改良青手無」より若干多い。

6. 収量は「改良青手無」より35%程度多い。

7. 子実の外観品質は「改良青手無」よりやや劣るが、煮豆が甘納豆としての加工適性は「改良青手無」と差がない。

栽培適地と奨励態度 道内のえん豆栽培地域を対象として「改良青手無」のすべてと、「大緑」の一部におき替える。また栽培上の注意は「改良青手無」に準ずる。

試験場名	品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		子 実		試験年次
				草 丈 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/株)	子実重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	品質	
北見農試	豊 緑	7.5	8.18	86	2.9	35.0	326	135	350	3上	1980~
	改良青手無	7.3	8.15	103	3.2	38.3	241	100	334	2下	1984
上川農試	豊 緑	7.1	8.4	69	3.8	33.6	304	135	321	2下	1980~
	改良青手無	6.29	8.2	94	3.9	41.4	225	100	313	2下	1984
十勝農試	豊 緑	6.27	8.10	98	2.5	24.6	192	122	325	3中	1980~
	改良青手無	6.24	8.9	123	1.9	26.0	157	100	320	3中	1984

参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 27-30 (1985).

2) 農林水産技術会議事務局編. 新しい技術. 23, 40-44 (1986).

3) 成田秀雄, 等. 北海道立農試集報. 55, 63-73 (1986).